

第2期北海道自転車利活用推進計画の推進状況

- ・ 第2期北海道自転車利活用推進計画 … 1
- ・ 第2期計画に基づく施策の推進概要（R3～R5） … 2
 - 「もっと、自転車北海道。」の総合的な展開
 - I. 自転車の魅力を生かした多様なサイクルスタイルの実現
 - II. 自転車を安全で安心して利用することができる環境の構築
 - III. 北海道の特性を生かしたサイクルツーリズムの推進
 - 「サイクルオアシス」整備と展開
- ・ 第2期計画に基づく施策の今後の取組（R6～） … 8



第2期北海道自転車利活用推進計画

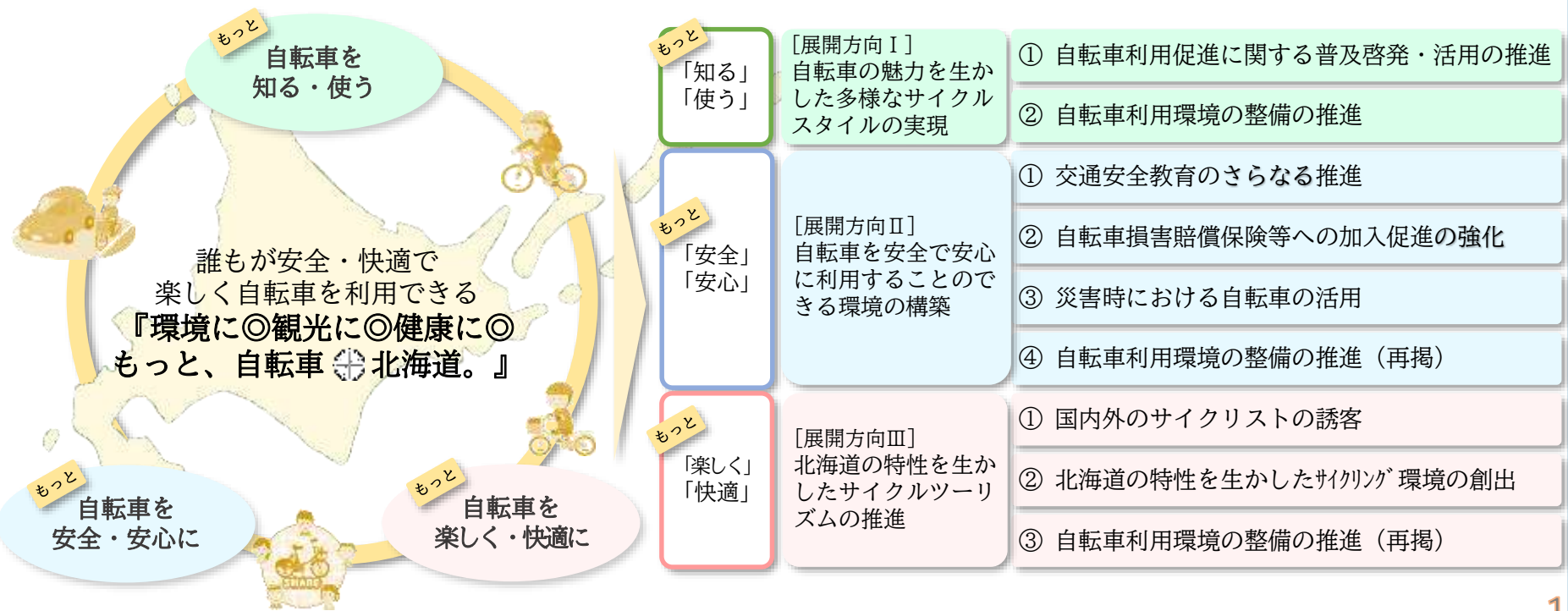
◆ 主な経過

- ・ 社会環境の変化に伴い、自転車の果たす役割は大きく変化
 - ・ H29.5「自転車活用推進法」施行
 - ・ H30.4「北海道自転車条例」施行
 - ・ H31.3「北海道自転車利活用推進計画」策定
 - ・ R 3.3「第2期北海道自転車利活用推進計画」策定
 - ⇒ 更なるステップアップに向け自転車関連施策を一層強化
- <推進期間>
改定時(R3.3) から令和7年度(2025年度) まで

◆ 自転車を取り巻く環境（策定時）

- ・ 自転車利用の現状：自転車の日常利用は全国平均以下、自転車の活用は、環境負荷低減だけでなく、健康増進に効果的
- ・ 自転車の安全利用：ヘルメット着用率及び自転車損害賠償保険の加入率が全国平均を下回っている、自転車対歩行者の事故件数は増加傾向、関係者から走行環境の安全性の向上を求める声があがっている
- ・ サイクルツーリズム：8つのルート協議会のサイクルルートが、国のモデルルートに位置づけ

◆ 北海道のめざす姿



第2期計画に基づく施策の推進概要（R3～R5）

第2期北海道自転車利活用推進計画の「もっと、自転車を知る・使う」「もっと、自転車を安全・安心に」「もっと、自転車を楽しく快適に」の3つの視点に立って、幅広い分野にわたる自転車関連施策を一体的に推進

I. 自転車の魅力を生かした 多様なサイクリスタイルの 実現 もっと 知る 使う	II. 自転車を安全で安心に利用 することができる環境の 構築 もっと 安全 安心	III. 北海道の特性を生かした サイクルツーリズムの 推進 もっと 楽しく 快適
<「もっと、自転車北海道。」の総合的な展開> ○ 環境、観光、健康などあらゆる視点からの自転車利活用を促進するため、体験型PRイベントの開催 ○ 公式インスタグラムなど、Webコンテンツを活用した継続的な情報発信		
○ 会議等による国や関係機関との連絡・調整 ○ 市町村の自転車関係計画の策定促進 ○ シェアサイクルの利用促進 ○ 大規模自転車道の整備 ○ 安全で快適な自転車通行空間の確保	○ 自転車安全推進分科会 (R4.2.9、R5.3.8、R6.2.15開催) ○ ヘルメット着用の促進 ○ 自転車損害賠償保険への加入促進 ○ 自転車教育や安全教育の実施 ○ サイクリストの休憩所「サイクルオアシス」の整備と展開	○ アドベンチャートラベルの推進 ○ 「北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度」の創設 ○ 健康づくりの視点に立った情報発信 ○ サイクルトレインの推進（釧路）

「もっと、自転車北海道。」の総合的な展開

◆ 自転車利活用促進PRイベントの開催

- ✓ 自転車の相談コーナーや試乗体験のほか、ヘルメット着用啓発及び自転車保険加入啓発などを一体的に実施

R3	知って、使おう	札幌市、旭川市、大樹町	Eバイク体験、31市町村の取組紹介 など	計 776名
R4	体感キャラバン	14振興局	環境、健康、観光などのクイズ実施 など	のべ 4,658名
R5	サイクルフェア	札幌市(2日間)	自転車初心者ターゲットとした体験 など	5,141名

〔PRイベント(R5)の様子〕



試乗体験



キッズバイク試乗体験



ヘルメット着用啓発



バーチャルサイクリング体験



交通安全啓発

◆ SNSを中心とした継続的な情報発信

- ✓ 各種イベントや道庁等における普及啓発パネル展の実施
- ✓ 公式Instagram等のWEBコンテンツを活用した総合的な普及啓発・情報発信
- ✓ 「もっと、自転車北海道。」サポーターや包括連携協定締結の企業等との協働による「フレンドリーロード北海道」などの普及啓発



ベロタクシー
(札幌市内)

I. 自転車の魅力を生かした多様なサイクリスタイルの実現



もっと
知る
使う

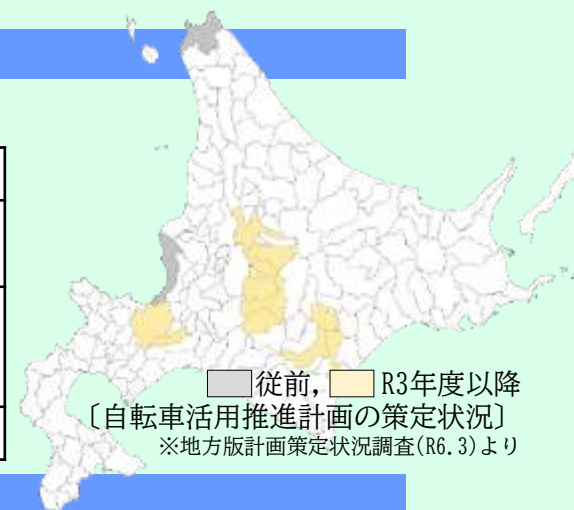
◆ 会議等による国や関係機関との連絡・調整

- ✓ 災害利用やトレイル利用について、必要に応じて庁内関係部署・国や関係機関等と連携・調整
- ✓ ナショナルサイクルルート等の道内サイクルルートの活用やハード・ソフト両面での整備等に当たり、随時、関係機関と連携・調整

◆ 市町村の自転車関係計画の策定促進

- ✓ 市町村における自転車に係る計画策定の働きかけや市町村への情報提供の実施

計画	自転車ネットワーク計画	自転車活用推進計画
根拠	安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン(国土交通省・警察庁)	自転車活用推進法第11条(努力義務)
目的・内容	安全で快適な自転車通行空間の効果的、効率的な整備のため、選定した路線の整備形態を示す	国や道の自転車活用推進計画を勘案し、市町村区域の実情に応じた自転車の活用の推進に関する施策を定める
策定済数※	9市町(7市2町)	14市町村(7市6町1村)



◆ シェアサイクルの利用促進

- ✓ 道HP等でシェアサイクルの取組を紹介するとともに、道庁舎敷地内にも「ポロクル」のサイクルポートを設置

◆ 大規模自転車道の整備

- ✓ 札幌恵庭自転車道線の整備促進
 - ・北広島工区：市道北進通沿線の用地買収
 - ・恵庭工区：道道江別恵庭線～道の駅(花ロードえにわ)迄のルート決定

◆ 安全で快適な自転車通行空間の確保

- ✓ 自転車通行空間の整備推進(矢羽根型路面標示等の整備)

矢羽根路面標示

▶自転車の通行位置と方向を明示して、自転車利用者だけでなく、自転車ドライバーに対しても、車道上の自転車通行位置を知らせる、法定外の路面表示。



II. 自転車を安全で安心して利用することができる環境の構築

◆ ヘルメット着用の促進

- ✓ 全年齢での自転車ヘルメット着用の努力義務に合わせた取組の強化
- ✓ 認定NPO法人ポロクルと連携して無料でヘルメットを貸出
- ✓ 自転車安全利用広報動画のYouTube配信
- ✓ 各種イベントによる普及啓発

〔R5各種イベントの様子〕



サイクルセーフティキャンペーン開始式



サイクルフェア in Sunpiazzza



「札幌サイクリング協会」と協同啓発

〔自転車安全利用動画の制作〕
安全利用、ヘルメット着用促進
(道警と共同制作)



※動画は道及び道警の
YouTubeにアップ

◆ 自転車損害賠償保険への加入の促進

- ✓ 保険業界との連携による加入促進
- ✓ 道のホームページにおける保険情報の提供

明治安田生命保険相
互会社と連携した血
管年齢測定・自転車
保険相談



◆ 自転車教育や安全教育の実施

- ✓ 自転車シミュレータの活用やスケアード・ストレイト教育技法※による安全教室の実施
- ✓ 道立高校・中等教育学校における体験型交通安全教室、生徒による街頭啓発、生徒会等による自転車点検等の実施
- ✓ フードデリバリー事業者への情報共有や自転車配達員への講習会の実施

※ スケアード・ストレイト教育技法
「恐怖を直視させる」という意味で、スタン
トマンが受講者の目の前で交通事故を再現す
ることにより、交通事故の衝撃や怖さを実感させ、
交通ルールの必要性を受講者自身に考える機会
を与える教育技法のこと。

Ⅲ. 北海道の特性を生かしたサイクルツーリズムの推進

◆ アドベンチャートラベル（AT）の推進

- ✓ 道内のサイクルルートをベースとしたATルートの検証、AT商品の造成
- ✓ ATワールドサミット参加者（海外観光事業者）に向けたサイクリングツアーの開催
- ✓ 会期中（R4.9.11～14）における地域と連携したサイクルツーリズムのPR

日程	内容
9/上旬～10	・開会前に行われる4泊程度の体験ツアー ・全15コースのうち、8コースにサイクリングあり （71名参加）
9/11	・サミット初日に行われる日帰りの体験ツアー ・全31コースのうち、10コースにサイクリングあり （170名参加）



開会前サイクリングツアー
洞爺から日本海へ

もっと
楽しく
快適

◆ 「北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度」の創設

- ✓ ガイドの認定分野に「サイクリング」を設定
認定ガイド：16名（うち、サイクリング3名）

※ 北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度
アクティビティ、自然、異文化体験のうち、2つ以上を組み合わせた旅行形態（アドベンチャートラベル）に対応したガイディング等を行うガイドの認定、育成等に関する制度。



北海道ATガイド認定証交付式

◆ 健康づくりの視点に立った情報発信

- ✓ Twitterの活用によるサイクリングの有効性等に係る情報発信

◆ サイクルトレインの推進（釧路）

- ✓ H100形ラッピング車両によるサイクルトレインモニターツアーの実施
- ✓ サイクルトレインの実用化に向けた取組の検討



ラッピング(釧網線)



積み込み

「サイクルオアシス」整備と展開

◆ 「サイクルオアシス」の整備

- ✓ 誰もが安心して楽しめるサイクリング環境づくりを一層推進するため、クラウドファンディングによる支援により、道内24施設について、サイクリストが安心して休憩できる場「サイクルオアシス」として整備
- ✓ 各施設には空気入れ（仏式・英式・米式対応）と修理工具のほか、道産木材を使用したサイクルラックを設置

〔クラウドファンディング結果〕

実施期間	R4.8.30～R4.10.31
寄附件数	156件（個人149件、企業7件）
寄附額	1,251,000円（目標100万円）

- ✓ クラウドファンディングの企画、環境整備の方向性など、民間の有識者の参加による「検討会」にて意見交換しながら実施



サイクルオアシスの設備
空気入れ、修理工具、サイクルラック

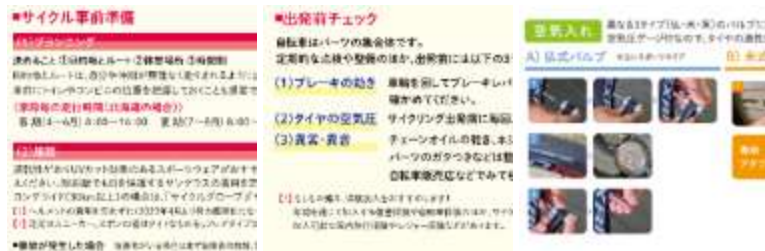
◆ 「サイクルオアシス」マップの作成・配布

- ✓ サイクルルートや「サイクルオアシス」を紹介したサイクルオアシスマップを5種類（全道版、道央、道南、道北、道東）作成し、イベント等にて配布
- ✓ サイクルオアシスマップの道HP、Instagramでの紹介



〔サイクルオアシスマップ裏面〕

サイクル初心者にもわかりやすい内容とするため、「事前準備」や「出発前チェック」、「空気入れの使い方」、「交通ルール」などを掲載



第2期計画に基づく施策の今後の取組（R6～）



令和7年度の「北海道自転車条例の点検」及び「次期北海道自転車利活用推進計画の策定」を見据えながら、引き続き、3つの視点から、幅広い分野にわたる自転車関連施策を着実に推進。

I. 自転車の魅力を生かした 多様なサイクリスタイルの 実現

もっと
知る
使う

II. 自転車を安全で安心に利用 することができる環境の 構築

もっと
安全
安心

III. 北海道の特性を生かした サイクルツーリズムの 推進

もっと
楽しく
快適

<「もっと、自転車北海道。」取組の継続的な展開>

- ナショナルサイクルルート「トカプチ400」の広報など、十勝での体験型PRイベントの実施
- 写真投稿型SNSであるインスタグラムにおける自転車関連の魅力発信の強化



- 条例推進会議や自転車活用等推進会議（庁内会議）等の開催
- 国・市町村・関係機関との連携・情報共有・調整
- 大規模自転車道の整備
- 安全で快適な自転車通行空間の確保



- 改正道交法(R5)を踏まえたヘルメット着用の促進
- 北海道自転車条例に基づく自転車損害賠償保険加入の促進
- 自転車教育や安全教育の実施



- A T受け入れ体制整備やA T取組地域の支援
- A Tガイドの育成・能力向上
- 健康づくりの視点に立った情報発信
- サイクルトレインの実用化に向けた取組の検討



誰もが安全・快適で楽しく自転車を利用できる
「環境に◎観光に◎健康に◎もっと、自転車北海道。」

関係機関等が連携した取組を中心として、
北海道をサイクリスト憧れの地に！